

ニライみみい

2026年(令和8年) 2月号 455号

「稼ぐ力」を次世代へ――

伴走者として経営者の覚悟を支え、
人と企業を未来へつなぐ



<今月号の目次>

- 3 面
} 支部・部会忘年会
- 9 面
- 10 面 同友会大学
- 11 面 経営指針作成講座
- 12 面 マリノ健康講座・知って得する
- 13 面 だっからよ～【(株)システック沖縄】
- 14 面 わが社のポリシー【(株)ひろし不動産】
- 15 面 10-12 月期景況調査

同友会ってどういう会？

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208
<http://www.okinawa.doyu.jp>
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp



入会申込フォーム



魅力動画



行事案内



Facebook





大浜氏

「稼ぐ力」を次世代へー。

伴走者として経営者の覚悟を支え、人と企業を未来へつなぐ

■「稼ぐ」の先にある 経営者の責任に寄り添う

「稼ぐ力を未来へ繋ぐ。ー経営者の覚悟で賢く逞しい人生を共に創る」。この理念には、自身も経営者として歩んできた大浜さんの決意が込められています。

あいエフピーの事業内容は、総合保険代理業、不動産仲介・コンサル、企業年金（FOD）導入支援、さらに宅建士やFP（ファイナンシャルプランナー）の講師業から終活コンサルタントまで多岐にわたります。

特に近年注力している終活・相続コンサルティグは、大浜さん自身が還暦を迎え人生の「出口戦略」をリアルに実感したことから開始。経営者にとつての終活は、単なる身辺整理ではなく、心血注いで育てた事業をどう着地させ、いかに次世代にバトンを渡すか「最後の大きな仕事」になります。その重圧を理解するパートナーで「経営者の資産と想いを守り、次代へつなぐ『お金のホームドクター』」として、大浜さんは今、多くの経営者から全幅の信頼が寄せられています。

■「自立」から始まった 挑戦の軌跡

大浜さんの「働く」原点は、十歳の小学四年生にまで遡ります。「お小遣いは自分で稼ぐ」と心に

決めて新聞配達から始め、中高時代を通じて自らの力で中型バイクを手に入れた成功体験から、「仕事の本質は自らの手で価値を生み出す喜び」を実感します。高校卒業後、ファーストフード経営会社を皮切りに、アパレル、運送業とサービス業の最前線で十年間徹底的に「顧客満足」を叩き込まれました。

転機は三十歳。結婚を機に不動産業界へ飛び込み、宅地建物取引士を取得。仲介のプロとして研鑽を積む中「不動産の悩みは常に相続や税金そして保険の問題と直結している」真理に突き当たります。三十八歳の時にソニー生命保険からのオファーを受け、生命保険の本質「愛する人を守る経済的手段」に深く共鳴し、転職を決意。完全歩合制の厳しい世界でしたが「冴」としての専門性を磨き、十五年にわたり顧客一人ひとりの人生に深く切り込んできました。

■「あい」に込めた志と 独立への道

五十三歳で独立して「あいエフピー」を設立。「あい（○）」には情報社会の象徴であるiPhoneの「i」と「愛」を含み、五十音の「あ」で始まる名は電話帳の最初に来ることから「困った時に真っ先に思い出してもらえ存在でありたい」「サービスマン精神が込められています」。

その後、ファイナンシャル・ジャパン（株）沖縄支社の立ち上げにも参画。現在は同社沖縄支社のコンサルタントとして、さらには冴や不動産を扱う後進を育てる講師としても教壇に立ち、「知識の切り売り」ではなく実体験に基づいた「知恵」を伝える語り部に徹しています。

■同友会での学びが 専門家としての「芯」を作った

沖縄同友会への入会は、独立と同時期の二〇一五年。大浜さんはそれまでのビジネス人生を根底から揺さぶる学びに出会いました。「企業の社会性・科学性・人間性」の三つの側面を捉えて「労使見解」を通じて経営指針の確立。「それまでは『個』の力で稼ぐことに必死でしたが、同友会での学びを通じて、自社の存在意義を客観的に見つめ直すことができました。企業は誰のためにあるのか。地域のために何ができるのか。その問いが、私のサービスを『保険を売る』ことから『経営者の人生を守る』ことへ昇華させてくれました」。

那覇支部東地区の地区長や、広報委員長として月刊機関紙「ニライみらい」の編集に六年間携わった経験も大きく、数多くの会員企業の現場取材し、経営者の苦悩と歓喜に触れる中で、冴としての新たな使命にも気づいていきました。

■つなぐ、広がる、 二十一世紀のリーダーシップ

「ファイナンシャルプランナーの真の役割は点と点をつなぎ線にする」。弁護士や税理士の士業専門家と経営者をつなぐ。企業と企業をマッチングさせ、新たな付加価値を生む。そして、先代の想いを後継者へとつなぐ。

「これからも、人と人をつなぎ、企業と企業をつなぐハブでありたい。私が培ってきた全ての知識とネットワークは、共に歩む経営者の皆さんのためにあります」と大浜さんの眼差しは熱い。不透明な時代だからこそ羅針盤となる「お金のホームドクター」として沖縄の経済を支える経営者たちの「安心」を創り出すまで、大浜さんの挑戦は続きます。

（ソムノクエスト（株）・江口直美）

《会社概要》

あいエフピー

代表者 大浜博文氏

〈那覇支部〉

住 所 / 那覇市樋川1-16-14 3-A

T E L / 090-3792-9368

事業内容 / エフピー業務、総合保険代理店、
不動産仲介コンサルタント業務、
企業年金導入支援サービス、
終活サポート、その他



会場全体

十二月十二日、沖縄県立博物館・美術館にて「九州沖縄ブロック青年部会議」が四十六名の参加で開催されました。

九州・沖縄ブロック青年部会議 in 沖縄 宮城「青全交」へ向けて、 熱きプレ報告と忘年会

十二月十二日、沖縄県立博物館・美術館にて「九州沖縄ブロック青年部会議」が四十六名の参加で開催されました。九州各県より青年部会長や役員が一堂に会し、直近の青年経営者全国交流会「青全交」の振り返りを行うとともに、二〇二六年に宮城県で開催される「青全交」の報告者選抜二名によるプレ報告が行われました。

一人目は、熊本同友会の司法書士法人小松事務所 小松俊太氏が「自分が変われば会社は変わる」のテーマで報告しました。

県外での修業を経て、父が経営する事務所へ戻った小松氏。しかし、待ち受けていたのは古参社員との衝突や、偉大な父（同友会代表理事も経験）に対する劣等感でした。「代表は誰なのか」とモヤモヤする日々の中、経営指針書を作成し、父の創業の精神「会社のような組織にしたい」という想いに触れ、組織経営への道を歩み始めます。

一方で、青年部会長としても周囲と足並みが揃わず、「辞めたほうがいい」と言われるほどの苦境に立たされました。そんな時、先輩経営者からの「今いろいろあるかもしれないけど、やり切ったほうがいい」という言葉に奮起。「原因自分論」に立ち返り、逃げずにやり抜く覚悟を決めたことで、社員や仲間との関係

性が変化していきました。「自分自身ありのままを認め、他人と比べない」という言葉で締めくくられた報告は、多くの参加者の共感を呼びました。

二人目は、「現場に追われる経営者が気付いた、理念経営の力」のテーマで、鹿児島同友会の柳ブリッジ 社長 亀沢 隼人氏が報告しました。

「かつこいい理容師」を目指し、労働環境の良い会社を作ると決意して起業。しかし、コロナ禍の赤字に加え、三名退職・採用ゼロという深刻な人手不足に見舞われます。多忙な現場仕事の中でも「学びを止めてはいけない」と、先輩の助言通り学びの中心に身を置き続けました。

転機となったのは、ブレインゲーマー ジャーとして働く亀沢氏に対し、社員からかけられた「経営指針をもっと伝えてください」という言葉でした。

「背中で見せるのが正義」という思い込みを捨て、理念を言葉で伝え共有する経営へとシフト。その結果、社員から「僕の居場所がここがいい」という声が上がると、社員が新たな仲間を連れてくるまでに組織風土が劇的に改善しました。「理念があつたから十年経つても前を向けた」と語る亀沢氏の姿は、理念経営の真価を物語っていました。

その後は、会場をN A H A 新都心ホテル二階「居酒屋レストランちゅら」に移して、合同忘年会が開催されました。

(同友誠 棚原歩美)

茶論

初茜ことばは幸をもたら
しぬ／藤田直子

▼「初めに言葉ありき」。

聖書の一節だが、経営の現場でこそ、この言葉の

重みを感じる。どんな言葉を選ぶかで、組織の空気は変わり、人の行動が変わり、やがて結果が変わる。言葉は単なる道具ではなく、未来を育てる土壌なのだ。いま世界は、戦争の危機や自己中心的な資本主義の限界に直面している。「戦う」、「頑張る」、「勝つ」。私たちはこうした言葉を無意識に使ってきた。だが、これらの言葉は本当に、持続可能な未来へ導いてくれるだろうか。▼現実に向き合う中小企業こそ、言葉を見直す先頭に立てるのではないか。「戦う」ではなく「向き合う」。「頑張る」ではなく「大切にやる」。「勝つ」ではなく「信頼される」。こうした言葉の再定義が、利他の文化を育み、働く人の幸せと会社の成長を両立させる。▼同友会が掲げる自主・民主・連帯の理念も、まさに言葉から始まる。よい経営者とは、人を動かす言葉ではなく、人の心を動かす言葉を選ぶ人のことだ。月曜日が待ち遠しくなる職場は、一つひとつの言葉から生まれていく。▼草青む駿馬放たれ風と和す／生野順也（作古）



北部支部 講演会&忘年会

学びと共に、 1年の締めくくりを賑やかに



講師の 前屋 誠 氏

十二月三日（水）、ホテルゆがふい
んおきなわにて、北部支部講演会&忘
年会が開催されました。

第一部は、講演会（勉強会）と位置
づけ、七月のやんばるじんぶん塾でも
講話いただいたコザ信用金庫の前屋誠
専務理事を講師にお招きし「データを
使って最近の経済の話題について考え
る」をテーマにお話しいただきました。
いずれも旬な三つのトピック（①来
年の景気②ジャングリアの開業後③
AI）について、わかりやすいグラフ
資料を見ながら解説していただきまし
た。

名護市の人口は移住者（社会増）も
多く、増加を辿ってきた名護市です
が、自然増減がマイナスになってきて
おり、人口問題も今後の課題となりま
す。前屋専務理事は二〇二六年の景気
は「春季の賃上げ」「人手不足対策」「高



講演の様子

市政権の経済政策」にポイントがある
と話されました。
参加者からは「宿泊施設の少なさ」「
人手不足による機会損失」など、北
部の課題への感想が寄せられました。
また、課題に留まらず「今後データに
もとづいて戦略を考えたい」「金利な
どの動向を注視したい」「AIを活用

して生産性を上げたい」といった、現
場の改善に直結する反応も多くありま
した。講演で示されたデータを、取引
先企業の課題解決支援や名護市の発展
につなげたいという声もあり、データ
が次の一手を考えるきっかけになった
講演会となりました。

第二部の忘年会では、仲宗根修司さ



景品は何か

ん・比嘉毅さんのコンビネーションが
光る司会進行のもと、美味しい料理に
舌鼓をうち、一年の振り返り、来年へ
の抱負を共有しました。恒例となった
プレゼント抽選ビンゴでは、豪華な協
賛プレゼントの差し入れもあり白熱し
ました。また、ゲーム大会（けん玉チ
ャレンジ・ジェスチャーチャレンジ・
ストローでピン

ポン玉運搬チャ
レンジ）も大い
に盛り上がり、
活気ある一年の
締めくくりとな
りました。
（株）アイランド・
プロジェクト
新井章仁





南部支部 12月支部例会&忘年会



講師の照屋義実氏

別例会と位置づけ報告者に前副知事で現在那覇空港ビルディング代表取締役照屋義実氏をお招きして「NABCOの歴史、GW2050をどう捉えるか」「社長就任の不思議な巡り合わせ」と題して報告いただきました。

那覇空港ビルディング（通称：NABCO）は一九九二年十二月一日に設立され、現在社員数は六十三名です。業務内容が多岐にわたることから社員数が少ない印象を受けました。

照屋社長は最初社長の要請を固辞していたそうですが、株主である沖繩県から再三の要請を受けて就任に至りました。社長就任後は経営者として社員一人ひとりと面談を行い、信頼関係を築くと、空港内にあるテナント店にも自ら出向いて挨拶を行うなど長年築い

十二月
十一日、ユ
インチホテ
ル南城にお
いて支部例
会&忘年会
が開催さ
れ、三十六
名が参加し
ました。支
部例会は特

てきた経営者としての姿勢を発揮します。

その中で長年非正規で定年間近の社員を、照屋社長は今までの功績を鑑み幹部に提案し、正規社員にして定年退職させるという同友会で培ってきた経験を活かし「人を生かす経営」の実践を聞き参加者全員感動しました。

NABCOは全国の空港で1番の
経常利益率があり、羽田や成田にも劣
らない会社経営をしていることを経営



記念撮影

者として誇らしく報告していました。ただし課題も山積していて増え続ける観光客に対してターミナルが受け入れられる飛行機数が限界に近づいていきます。滑走路が2本になり発着枠が増え、国際便が増便して外国からの観光客が急増していることが要因です。「オーパーツーリズム」という言葉が出てくるほど受け入れ態勢が厳しくなっていることから、駐車場の増設とターミナルの新設は不可欠になっています。

そこに関連するのが「GW2050構想」になります。前提としてあるのが「普天間基地と牧港補給地区の返還になつており、現実的に可能かどうかは



乾杯

不透明だとしても経済成長に大きくつながることは確実です。その中でも特徴的なのが、一人の平均県民所得が二百五十四万から六百二十四万にすることです。これが実現すると貧困問題の解決にもなります。交通面でも交通渋滞の解消とLＲ1や鉄軌道のお話もされていました。グループ討論も未来志向で盛り上がっていました。

その後忘年会を開催し、ビール、ノンアルコールビールの引き酒ゲームや提供いただいた景品をくじ引きで楽しみました。二〇二六年も南部支部をよろしく願います。

(有)たけ事務 竹 富久

南城市長表敬訪問

年の瀬迫る十二月二十五日に先の選挙で市長となった大城憲幸氏に中小企業家同友会の説明とご挨拶に伺いました。急遽の案内であったため参加者は三名でしたが、市長と担当部長と課長の三名が対応いただき、南城市内の会員や中小企業小規模企業振興基本条例制定のお願いをしました。短い時間でしたが大変よい意見交換になりました。

(有)たけ事務 竹 富久)



宮古支部 忘年会

女性の視点が経営を強くする

十二月十二日、宮古支部は、しゃぶ庵本館にてゲスト参加四名を含む三十九名で十二月例会を開催しました。沖縄同友会女性部会碧の会の協力のもと、報告者、コーディネーター、パネリスト、グループ討論のグループ長まで、すべて女性が担う例会となりました。女性の視点を経営に活かす重要性を改めて実感するとともに、女性の活躍が目立った二〇二五年の締めくくりにふさわしい例会となりました。

第一部の経営報告では、サンライズ支部副支部長で（株）いわ文明堂代表取締役の石川京美氏が、「同友会でア

ップデート（絆をつくっていく）」をテーマに登壇しました。石川氏は、経営に悩んだ時期に碧の会の仲間を支えられ、相談を重ねる中で前向きな判断ができるようになった経験を紹介。さらに、同友会の全国行事への参加を通じて新たな出会いが生まれ、経営者としての視野が大きく広がったことを語りました。仲間との学び合いが、経営者自身の成長につながっていることが印象的な報告となりました。

続くパネルディスカッションは、宮古支部副支部長で（有）楽園の果実代表の砂川智子氏がコーディネーター。登壇し

た宮古支部女性会員であるパネリストからは、同友会の学びを自社経営にどう活かしているか、具体的な実践が語られました。

合同会社薬技建 執行役員の宮國さやか氏は、経営指針作成講座で経営理念を策定したことで、会社としての方向性が明確になり、判断に迷いが少なくなったと報告。理念を言葉にするこの重要性を強調しました。（株）富士自動車 専務の宮國美奈子氏は、経営指針作成講座で作成した経営指針を社員と共有したことで、社員との距離が近くなり、日常のコミュニケーションが円滑になったと述べました。同友会活動で、社員との関係づくりを見直す機会であり、同時に自分自身を見つめ直す大切な時間として捉えていることが紹介されました。また、（株）ひろしま不動産 専務の砂川千賀子氏は、企業変革支援プログラム version 2 を活用し、自社の経営状況を客観的にチェックする取り組みを実践していることを報告し、現状を見える化することで課題が明確になり、改善につなげている様子が共有されました。



パネリストの皆様（左から）砂川智子氏、砂川千賀子氏、宮國美奈子氏、宮國さやか氏



熱心に聞く参加者



宮古高校の軽音楽部 O.P. (オーパス) による演奏

グループ討論では、各グループの進行役も女性が務め、女性ならではの細やかな視点と配慮が議論を深

め、「人を生かす経営」を実践する同友会の姿勢を体現する時間となりました。

第二部の忘年会では、友利博明宮古支部長による開会挨拶に続いて、ゲストとして参加いただいた金融機関の皆様よりご挨拶をいただきました。

沖縄振興開発金融公庫 宮古支店業務課長 久高洗様、琉球銀行 宮古支店副支店長 岸本順子様、沖縄海邦銀行 屋比久千織様からは、地域企業への期待や同友会との連携に向けた温かいメッセージが寄せられ、日頃から築いてきた信頼関係の大切さを改めて実感する機会となりました。

その後、宮古高等学校軽音楽部 O.P. (オーパス) による演奏が披露されました。若さと情熱あふれる力強い演奏に、会場は自然と手拍子が起こり、世代や立場を超えた温かな一体感に包まれました。この演奏をきっかけに、全国大会出場を控える O.P. の挑戦を応援しようと、その場で寄付金が募られ、後日、宮古支部として正式に贈呈式を行いました。地域の若者を支え、未来につなげていく姿勢もまた、同友会活動の大切な役割であることを実感する場面となりました。

学びと交流、そして地域とのつながりが凝縮された忘年会となり、宮古支部にとって二〇二五年の締めくくりにふさわしい時間となりました。

（先嶋産業（株） 友利博明）



碧の会 望年会

ゲストが違和感なく一瞬で溶け込む

十二月二日、ダブルツリーbyヒルトンにて、碧の会望年会が会員交流委員会企画で開催され、四十七名が参加しました。

会場に足を踏み入れた瞬間から、女性経営者部会ならではのパワーと一体感を強く感じました。ノリの良い司会進行により場の空気は一気に温まり、初めて顔を合わせる方同士でも自然と会話が生まれていきました。

恒例のゲーム企画はさらにバージョニアップされ、終始笑いと歓声に包まれる時間となりました。進行やルールには細やかな配慮が行き届き、参加者全員が無理なく楽しめる構成だったことが印象的です。加えて、景品が全員に行き渡る工夫もなされており、誰一人取り残されることのない一体感のある場がつくられていました。

特に印象に残ったのは、ゲストとして参加された方々が、違和感を覚える間もなく一瞬で場に溶け込んでいた点です。初参加であっても壁を感じさせない雰囲気は、女性経営者部会が大切にしてきた「場をつくる力」「人を受け入れる力」の表れだと感じました。

企画全体を通して、短期間で準備



碧の会集合

されたものではなく、長い時間をかけて丁寧に練られてきた委員会メンバーの想いが随所に伝わってきました。

この望年会は、単なる年末行事にとどまらず、人と人との距離が自然に縮まっていく時間でした。会場を後にする頃には、あちこちで次の再会を約束する声が聞かれ、この場で生まれた繋がりが、また一年を動かしていくのだと感じさせられました。

(同) フィット 唐沢祐香



中部支部 忘年会

抽選会全員の当選で、声を届ける

中部支部忘年会が二〇二五年十二月十日、結婚式場N・B・Cにて開催され、ゲストの海邦銀行含め四十三名が参加しました。

玉城栄支部長の開会あいさつに続き、新会員三名の紹介および、ゲストとしてご参加いただいた沖縄海邦銀行の皆様の紹介が行われました。與崎文美副代表理事の乾杯のあいさつを合図に、年末ならではの和やかな雰囲気の中、参加者は食事を囲みながら交流の時間を過ごしました。

会場では、久しぶりに顔を合わせた会員同士が近況を語り合い、初めて出会う会員同士が名刺を手に言葉を交わしていました。自然と、会話と笑顔が広がっていく様子が印象に残りました。後半の名刺抽選会では、参加者全員の名刺を箱に入れ、引き当てた名刺の持ち主を当選者として発表。当選者は



挨拶する玉城栄支部長

五秒で景品を選び、三十秒で一言あいさつをするというテンポの良い進行で会が進みました。景品は参加者全員に行き渡り、参加者全員が一言ずつ声を届けることができました。

一年の締めくくりとして、会員同士の距離が自然と縮まる、あたたかな忘年会となりました。(司法書士法人なかいし事務所 新城千夏)



中部支部集合



那覇支部忘年会

4地区一緒にちむどんどん！

十二月十六日、那覇支部忘年会が開催され、ゲストを含め南北東西地区合同で八十二名が参加しました。

那覇支部は日頃四地区に分かれて活動しているため、忘年会は地区間の団結を固め、新たな仲間を歓迎し、楽しく交流・懇親する趣旨でおこなわれました。

赤嶺正巳幹事長の司会で名刺交換のほか、生天目花蓮副支部長兼実行委員長の開会の挨拶、新城恵子（株）Dianaの同友会相談役の乾杯で始まりしました。

新会員紹介、同友会に入って良かった話のあと、いよいよ団体戦に…地区対抗のジエスチャーゲームで勝ったチームからプレゼント get・ルーキーチームVSベテランチームクイズ大会・全員でフォークダンスタイムと大いに盛り上がりしました。

そのあと少しクールダウンしてから、ゲスト紹介、支部委員会紹介を根橋理香例会委員長・河野信之経営委員長・新井崇史政策委員長から、そしてこの一年を振り返っての地区活動を宮里公宜東地区長・大城章西地区長・カーマシュー南地区長・黒岩珠枝北地区長の初のトークタイムがあり、各委員長・地区長の同友会・



◀南地区のメンバー

▼ゲームで盛り上がる



支部・会員への愚直な篤い思いを感じました。最後に武島多加雄支部長から感謝と来年も「四地区一緒にちむどんどんしよう！」エールで閉会し、余韻の残る三時間でした。

今回は会場であるSCRATCH（スクラッチ）のワンフロアを貸し切りでおこなわれたため、参加者全員が気兼ねなく交流を楽しむことができ満足度もアップ！、ゲストの入会促進にも繋がりました。

（ソムノクエスト） 江口直美



八重山支部年末ボウリング大会&忘年会

驚異のボウラー現る！

八重山支部では毎年恒例の年末ボウリング大会&忘年会の時期がやってきました。昨年は年末に出来なく三月に行いましたが、今年は十二月十九日、無事に年末に開催することができました。

今回なんと二連覇している山城支部長は残念ながら欠席されることになりました。連覇している王者のいない中、年一回しかやらない人や、数年ぶりとはプラシカがある人など色んな人に参加していただきました。

ボウリングの後には、場所を変えて「島料理 楽園」にて表彰式&忘年会。今回の優勝は、今回十年ぐらいぶりにボウリングを行ったというダイビングショップマリンポイントの屋良部さん。なんと一ゲーム目に驚異の百九十を出し二ゲーム目も百四十五と合計三百三十五の素晴らしい成績を出していました。さすが現役のダイビングインストラクター運動神経がすばらしかったです。

八重山支部のボウリング大会では一位がいい商品というわけではないです。一位から順番にくじを引いての賞品となります。これならボウリングの上手下手関係なく誰でも賞品をもらえる可能性があるので恒例となりました。今回も会員もゲストも大盛り上がり。



表彰式・忘年会



集合写真

りのボウリング&忘年会となりました。
（宮平観光） 宮平輝



サンライズ支部忘年会 全員が輪になり、一人ひとりがスピーチ



講演するけいたりん

やかに懇親。各社持ち寄りの景品抽選会では、参加者全員の名刺を箱に入れ、司会が引き当てた名刺の持ち主を当選者として発表していききました。景品は参加者全員に行き渡り、更に抽選の追加を行う盛況ぶりでした。

その後、全員が輪になり、一人ひとりがスピーチし、今年を振り返るなど近況報告を行い、お互いを知ることができる忘年会になりました。

(カラオケ同友会 島尻裕巳)

十二月十日、総合包装イノベーションスペースにて、サンライズ支部忘年会が開催され、海邦銀行の支店長を含め三十二名が参加しました。会場は、総合包装(株)の新しくできたイノベーションスペースで、真新しい広々とした空間で新鮮でした。

忘年会には、特別企画でお笑い芸人の沖縄よしもと・プロパン7のけいたりん・上原圭泰氏が登場し、演芸を披露。笑いの中に和やかな雰囲気的交流することが出来ました。けいたりん・上原圭泰氏は、家族の自虐的なコントを次々と繰り出し、爆笑をさらって、そのまま懇親会にも参加しました。

懇親会では、宮城勇支部相談役の乾杯の後、石川京美副支部長の司会で和



集合写真



ビジネス連携部会ゆるいまる 「ゆいピッチ」と忘年会を開催



集合写真

企業体)で一緒だった部長から一喝され、完遂させます。嘘をつかず、隠さず、仕事を最後までやり遂げることが大切」と、仕事から逃げないことを、しくじり「から学んだそうです。

同友会については、現在北部支部役員とゆるいまるの副部長などを担い、様々な委員会や他支部例会にも参加。「学んで仕事にも生かすことができる・ビジネスチャンスが生まれる、悩み解決の場所」であると貴重な場所になっているそうです。

父が建設業を営んでいたが承継するのが嫌で家から出たものの、困窮する状態を知り、一旦は手伝っていたそうです。しかし立ち行かなくなり、倒産という状況に陥りその整理に奔走。その経験からいろんな角度で「生き様」を見ることができ、内面の良さや強さなど自身の生き方に生かされていると語りました。

報告後の質疑応答では、子供との関係や現在の仕事などについて質問が出され、初めての「しくじり版」ゆいピッチは参加者にも経験の共有ができる内容となりました。

終了後は、会場を移動して忘年会を開催し、お互いの近況など語り合い、那覇の夜を楽しみました。(事務局)

第30期 同友会大学

第13講 脱炭素を自分事として考える
第14講 懸命にいきる人々〜いま、私達がまなぶべきこと〜

第13講

講師：(株)okicom
取締役副社長 小渡晋治氏



小渡 晋治 氏

十一月二十九日、第十三講は「脱炭素を自分事として考える」をテーマに(株)okicom 取締役副社長 小渡晋治氏が講師をつとめました。講義の初めに何故、脱炭素が必要なのか、持続可能でなければならぬのか、の問いかけから始まりました。

小渡氏は、地球規模で自然回復できない状況に陥っている現在、すべての企業に求められる脱炭素経営とは何か。二〇五〇年カーボンニュートラルの目標に世界全体が取り組み始めている今、企業がこの問題を取り組まない場合のリスクや影響は何があるかなど説明。今後グローバル社会で求められるサプライチェーン（供給の連鎖）全体で排出量削減を求められる社会が来ている、まず

は自社の排出量を知ることから脱炭素経営が始まると強調しました。

炭素を吸収する森林（グリーンカーボン）以外に海洋・海洋性植物（ブルーカーボン）の面積あたりに吸収量と蓄積機関が長いことから世界が注目しています。ブルーカーボンの生態系は主に四種、海草・海藻・塩性湿地と干潟・マングローブ林です。この海洋植物を保全しCO2をたくさん吸収させるとCO2の排出枠を売買することができ、「炭素クレジット」「Jブルークレジット」と呼ばれ取引されます。

沖縄県の温室効果ガスの排出量は二〇二三年で1170、6万トン、カーボンクレジットの価格は1トン当たり三千円、約三五〇億円、沖縄の企業でも海洋での人工物を形成し、藻場を作る費用対効果の研究が進んでいます。

沖縄の海を保全し藻場を増やす事で環境改善と経済効果を高める原動力がこの海には秘んでいます。まずは自社のCO2排出量を知り、脱炭素社会と向き合う経営者を目指しましょう。次世代がより良い環境で暮らせるためにも。（シンプロメンテ(株) 徳田恭紀）

第14講

講師：(一社)アジア支援機構
代表理事 池間哲郎氏



池間 哲郎 氏

十一月二十九日、(一社)アジア支援機構 代表理事 池間哲郎氏による第三十期同友会大学の最後の講義が開催されました。テーマは「懸命にいきる人々〜いま、私達がまなぶべきこと〜」。

池間氏はこれまで東南アジアでの撮影、調査、支援をしてきた映像を軸に「どんな過酷な状況下でも、懸命に生きる現地の人々の姿から、人間としてのあり方や力強く生きる力を学べる」と語りました。寄付や支援物資を送ることが貢献ではなく「最も大切なボランティアは、自分自身が一生懸命に生きることです」の一言を深く心に刻んだ受講生も多くいたようです。

また、池間氏は「今、日本の子供達が危ない」と語り、先進国の中で最も自己肯定感の低いのは日本の子供達であるという現状を知りました。平和であるがゆえの親の過保護や過干渉が、結果として子供達の生きる力を奪っている現実、グループ討論では、会社の中でも人を支

えるつもりが、成長の機会を奪うことになっっていないかと置き換えた意見もできました。

また、グループ発表では、「今日の講義内容を家族と話し合いたい」や、「帰ったら子供を抱きしめてあげたい」等、家族の大切さを強く感じた受講生の様子が伝わる十四講でした。

(株)共栄環境 下田美智代)



グループ発表



第61期経営指針作成講座 第1講～第5講まで終了

十一月四日の事前学習会からスタートした第六十一期経営指針作成講座は、十社十三名が受講。一月二十日の報告会・修了式に向け約二カ月余、自社の現状に向き合い、情勢変化に対応する企業づくりのための指針書（経営理念・十年ビジョン・経営方針・経営計画）作成へと取り組めます。

第1講

十一月十五日に第一講「自社の現状を知る」で同グッド代表の大城章氏が講師をつとめ、受講生全員が自己紹介したあとに企業変革支援プログラムver.2の説明・記入と、中期経営計画・利益計画、財務・管理会計など講義のあと自社の三期分からワークシートを作成しました。



第1講の様子

第2講



喜納 朝勝氏

十一月二十九日は第二講「労使見解・経営理念」で㈱丸忠社長の喜納朝勝氏が講師をつとめました。なぜ経営指針が必要か、同友会の歴史を紐解きながら、講義とワークを交互にすすめました。受講生の皆さんはどう理念を成文化するか、表現が良いか、社員に伝わり共有できるか思案を重ね作成。

同友会では「人間性」「社会性」「科学性」の三つを理念に組み入れる提案をしています。すでに社内でも理念が確立されている方は深堀し、新たに成文化する方は、自社の存在意義と自身の人生を含め、事業内容を再考する機会となりました。

第3講



真栄田 一郎氏

十二月六日の第三講は「十年ビジョン、自社分析」で㈱沖島電機社長の真栄田一郎氏が講師をつとめました。第二講までの流れを振り返り、同友会で定義する十年ビジョンを説明し、自身のこれまでの経験など語り、講義をすすめました。ビジョンを持つことの大切さや経営計画・単年度計画、現場で頑張る社員との共有など、時間はかかるがじっくりと時間を掛けていく必要性を語りました。

第4講



當銘 将也氏

十二月十二日は第四講「経営方針・経営戦略」で㈱フォーカス専務執行役員の當銘将也氏がつとめました。自身が義父からの事業承継・創業などを経て現在の状況を事例として説明。また第一講～第三講までの講義を振り返り、自社の課題を明確にしつつ情勢認識の大切さ、外部環境と内部環境、SWOT分析シート等

第5講



大城 章氏

を活用し自社の状況を理解していきまし。経営方針を立てる上で理念、十年ビジョンが明確にならないと自社の事業をどの方向で展開させていくか、改めて認識を深め作成に挑んでいました。

十二月十二日は第五講「経営計画・利益計画」として同グッド代表の大城章氏が第一講につづき、講師をつとめました。第一講で自社の数字の現状を把握したことを振り返り、会社に必要な指標と管理会計など改めて確認しました。続けて中期利益計画・中期経営計画をどう立てていくか、十年ビジョンや方針に対し、どう具体化していくか、自社に落とし込むためにどうするかなど、受講生はサポーター・フォロワーの意見を参考に演習に取り組んでいました。

毎講、講義と演習（シートの作成）、グループ討論（受講生が発表、シートのブラッシュアップ）、修正と取り組みました。朝十時から夕方六時まで、日頃の業務では確保できない時間ですが、受講生、講師、サポーター・フォロワーが真剣に自社の現状と未来に向き合う貴重な講座となりました。（事務局）



健康も経営指標です

— 数字で見る、経営者のコンディション —

経営において、数字を見ない判断はあり得ません。売上や利益、キャッシュフローを確認せずに舵を切る経営者はいないでしょう。ところが自分自身の健康となると、「忙しいから」「まだ大丈夫」と感覚だけで判断してしまう方が少なくありません。

体調は、経営判断の質に大きく影響します。疲労が蓄積すれば集中力は落ち、視野は狭くなり、普段ならしない判断ミスも起こりやすくなります。これは能力や意欲の問題ではなく、その時のコンディションの問題です。

経営が数字で管理されているように、健康もまた数値で把握することが重要です。血液データは、体の中で何が起きているのかを客観的に示してくれます。自覚症状がなくても、数値にはすでに変化が現れていることも少なくありません。

一般的な健康診断や人間ドックは、「今、病気かどうか」を確認するための検査です。一方、分子栄養学の血液検査

は、現在の栄養状態から、体が将来どの方向に向かっているかを読み取る検査です。症状が出る前の段階、いわば赤字に向かう兆しを知ることができます。

男女を問わず、責任ある立場の人ほど無理を重ね、自分のことを後回しにしがちです。特に頑張れる人、我慢強い人ほど、不調を見過ごしやすく、気づいた時には限界を超えているケースも少なくありません。

健康は自己責任の問題ではなく、経営の質を支える大切な要素です。会社の数字を見るように、自分の体の数字にも目を向けてみる。それは、長く安定した経営を続けるための、重要な経営判断のひとつだと私は考えています。

経営者は、自分が倒れた時の影響を一番よく分かっている立場でもあります。それでもつい、「自分のことは後回し」にしてしまう。その積み重ねが、知らないうちに判断力や持続力を削っていくことは、決して珍しいことではありません。尚、あなたの十年後が分かる六十九項目の分子栄養学診断の血液検査に興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

星 真理

1961年生まれ
神奈川県三浦郡
葉山町出身
㈱スター
代表取締役



28歳の時に分子整合栄養医学と出会い、29歳で分子栄養学研究所(於東京)公認ヘルスイストラクターの資格を取得
大学での講義や県内外各地でのセミナー講師、沖縄県警察学校での講師などで活躍中

社労士・コンサルタント 青山喜佐子の

知って得する

シリーズ 173

新たなハラスメントに
備える

追加されるハラスメント防止義務化

職場のハラスメント対策に、二つの防止措置が事業主の義務となります。(施行令和八年十月予定)

一つ目はカスタマーハラスメント(カスタハラ)、二つ目は求職者等に対するセクシャルハラスメント(就活ハラスメント)です。

カスタハラとは

お客様や取引先からのクレームの範囲を超えた理不尽な要求や暴言により、現場の社員の疲弊、業務妨害、メンタル不調に影響を与えることです。厚労省は、次の3つの要素全てを満たすものと定義しています

- ① お客様や取引先の行動
 - ② 社会通念上許される範囲を超える言動
 - ③ 労働者の就業環境を害するもの
- これまでのハラスメント防止対策との違いは、対象が会社以外の人になることです。具体的には、暴言、理不尽な要求を繰り返す、長時間の居座りや電話を切らない、SNSで拡散するなどです。

カスタハラが発生したら、「顧客の要求に妥当性はあるか、要求実現のための手段社会通念上相当な範囲であるか」など、冷静な対応が求められます。カスタハラ対応を担当者個人の責任にしたり現場だけに任せずに、二人以上で対応する、証拠

を残すなど、組織として相談窓口や取り組む体制整備を義務づけています。県でも知事名でカスタハラ対策基本方針を発表していますので参考にしてください。

就活ハラスメントとは

就職活動中やインターンシップ中の学生等に対するセクハラやパワハラを指します。具体的には採用側という優位な立場を利用し、権力の乱用や不当な圧力をかける行為です。

人事担当者や面接対応をする会社上層部だけでなく、OB・OG訪問等で学生と関わる機会の多い若手社員がハラスメントを行うケースも報告されています。令和2年度厚労省調査では、学生の約4人に1人が就活ハラスメントの被害に遭っているという結果も出ています。

就活中の活動は学生や求職者にとって深刻な問題であり、社会的信用の低下、応募者の減少、働く意欲低下などリスクを伴います。厚労省指針案では、採用面接、就職説明会、OB・OG訪問、インターンシップ、などだけでなくSNSやオンラインを通じた場面も対象としています。

他社事例として、社員全員の意見を取り入れた「就活ハラスメント0宣言」「採用担当者行動指針やマニュアル作成」など取組が進んでいます。社会から信頼される「人を大切にする」企業目指して職場点検をお勧めします。

(青山喜佐子)



あおやま きさこ
青山喜佐子
(社会保険労務士法人
オフィスあるふあ所長)

〈プロフィール〉

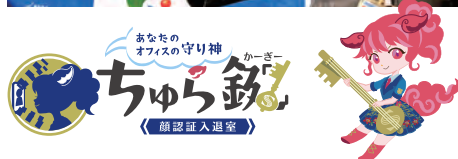
社会保険労務士
日本産業カウンセラー
大学非常勤講師
市町村行政改革推進委員など
社会保険労務士法人 オフィスあるふあ
TEL 098-870-6686

鍵管理の手間と不安を、まとめて解決 — 株式会社システック沖縄「ちゅら鍵」—



会員ホット情報

今おすすめだよ!



Q1 株式会社システック沖縄は、どのような事業を行っている会社ですか

A 当社は、情報処理装置および情報処理システムのソフトウェア開発・制作を主な事業としています。社員64名、役員4名が在籍し、社歴の長い社員が多いことも特徴です。ビーチパーティーや忘年会などの社内行事が年4回ほど行われ、バスケットボールやエススポーツなどのサークル活動も行われています。

Q2 「ちゅら鍵」とは、どのような商品・サービスですか

A 「ちゅら鍵」は、タブレットを使い、顔認証によって入退室管理ができるシステムです。工事不要で設置でき、賃貸物件でも後付けが可能です。鍵を持ち歩く必要がなく、顔認証にはAIを活用しており、日々顔を学習する仕組みのため、体型や髪型の変化があっても再登録の手間がほとんどありません。

Q3 開発のきっかけを教えてください

A 社内で企業理念やビジョンを策定した際、将来を見据えて先進技術の研究に取り組もうという方針が示されました。そこで、まず

AI画像認識技術の習得に着手しました。その後、技術の精度が高まってきたことから、自社のサーバールームに入退室管理システムとして導入しました。従来は指紋認証と紙による管理でしたが、コロナ禍を背景に、非接触で利用できる顔認証システムとして「ちゅら鍵」が誕生しました。

Q4 導入すると、従来と比べて何が変わりますか

A 鍵の受け渡しや管理から解放される点が一番大きな変化です。誰がいつ、どの部屋に入退室したかを自動で把握でき、作業時間管理も紙からシステムに集約できます。管理の手間や不安が大幅に軽減されます。

Q5 ちゅら鍵ならではの強みは何ですか

A 工事不要で賃貸物件にも対応できる点、AIが毎日顔を学習する高精度な顔認証、そして入口にタブレットを設置することで受付業務としても利用できる点です。来訪者と顔を見ながら会話ができることも特長です。

Q6 どのような職場におすすめですか

A IT企業やセキュリティ意識の高い職場、テナント入居の会社、従業員の入退社が頻繁な会社にお

すすめです。実際に、顧客から厳格な入退室管理を求められたIT企業では、紙管理から解放され喜ばれています。

【取材を終えて】

常務取締役の島袋清和さんの「人がやめるのは会社に魅力がないからだと思う。福利厚生や条件よりも、会社そのものの魅力が大事。そして人は人で辞めると思っている。」という言葉が印象に残りました。技術だけでなく、人を大切にする姿勢を強く感じました。

また、ちゅら鍵には、公式アンバサダー「しーちゃん」がいます。社内公募でイメージを募り、同友会会員である株式会社カリタスに制作を依頼したそうです。さらに、ホームページは同じく同友会会員の株式会社小立が手がけています。ぜひ一度、ちゅら鍵のホームページも覗いてみてください。

(司法書士法人なかいし事務所 新城千夏)

《会社概要》

(株)システック沖縄
取締役 島袋 清和 氏
(中部支部)



所在地／那覇市泊3-15-5
TEL／098-941-5900
事業内容／IT・通信、ソフトウェア開発

ひろし不動産は先代が1987年（昭和62年）に創業し、2代目の砂川幸男社長が2007年（平成19年）に株式会社ひろし不動産として法人化。2013年宮古支部で開催された同友会の経営指針作成講座に参加し、いろいろ悩みながら経営理念を明文化しました。そして試行錯誤を重ね、2年後の2015年に現在の経理理念が確立しました。

■ 経営理念

Mission ミッション (社会の中での役割と使命)

わたしたちは不動産業のプロフェッショナルとしてお客様、社員・家族のわくわく夢あふれる人生設計を実現し宮古島のかぎりない隆々発展に貢献します。

Vision ビジョン (会社の展望、将来の約束)

わたしたちはお客様、地域社会にゆるぎない信用を築き最も必要とされる唯一無二の会社として100年永続会社を目指します。

Value バリュー (社員共通の価値観)

わたしたちは仕事に大きな誇りを持ち、社員お互いが厚い信頼と強い絆を結びあい働きがい、幸せを実感する会社として存続します

一言で言い表せないという私自身の思いがあつてのこのような経営理念ができあがりました。経営理念ができた後は、共通の目標を持つことで社員が気持ちを1つにして行動するようになりました。社員ひとりひとりの意識が変わったと実感しています。以前はひとりひとりがちょっとバラバラになっていたようなところが、今は一つになっていると感じますね。私自身も何のために会社を経営しているのかを日々考えるようになりました

■ 人を活かす経営

私は不動産業を父親から引き継いでやっているわけですけど、お金儲けというか、そういう頭ばかりでした。同友会に入会する前は社員を大切にすることが全然わかりませんでした

たね。人の活かし方というか、社長、代表として人材育成の方法を全くわからなくてですね。いまは会社経営のすべてにおいて、同友会の学びを実践しています。もちろん利益がないと会社経営できないんですけど、それだけじゃなくて、やはり経営理念に沿って行動することが重要と考えています。もっとも重要なのはやはり社員とコミュニケーションですね。話しやすい相談しやすい環境を私自身が意識してですね、意見や、提案がどんどん出てくるような雰囲気作りが大切だと考えています。

■ 人を活かす経営の実践

社員を大事にするということはただ甘やかすわけではありません。相談やどんな意見も私が懐深く受け入れるような体制を絶えず意識して、この人に成長してほしいという強い思いで接し、彼らの考えや意見を引き出すように心掛けています。

また社員が社内研修、勉強会のみならず、同友会の社長社員共育塾、新人フォローアップ研修などに参加することで、確実に意識が変わってきています。

■ 三代目から見た現社長について

途中から三代目の砂川拓輝常務が同席。砂川常務によれば「経営理念があつて社長が理念に基づいた行動ができているので、それが社内に浸透しています。そして経営理念が体現できているので、それが社風になっています。相談しやすい、風通しがいい環境は社員に対してだけではなくお客様に対してもです。また経営理念に関しても賛同しているので、経営理念はこのまま変えずに引き継いで行く考えです。」と力強く発言されていました。

(アナタビ宮古島・愛川直樹)



わが社の ポリシー

第331回



(株)ひろし不動産

代表取締役社長 砂川 幸男 氏
〈宮古支部〉

経営理念
一言で言い表せない
私自身の思い

《会社概要》

(株)ひろし不動産

代表取締役社長 砂川 幸男 氏
〈宮古支部〉

所在地／宮古島市平良字下里907-2
TEL／0980-72-2277

事業内容／土地・建物の売買、仲介、
アパート・店舗・事務所の紹介、
賃貸管理

2025年10-12月期景況調査の結果について(見解)

業況判断は緩やかに改善、製造業と建設業が大きく改善
～人材不足対策、技術者確保への対応が急務～

2026年1月16日
(一社) 沖縄県中小企業家同友会

(一社) 沖縄県中小企業家同友会は、会員企業から抽出した1039社を対象に12月1日(月)から12月19日(金)の期間、「2025年10-12月期景況」についてのアンケート調査を実施しました。その結果について見解を発表します。(本文中、特に断りのない限り前年同期比です)

回答企業数

- (1) 回答企業
131社 回答率 12.6%
- (2) 業種別 () は実数
サービス 36.6% (48)
流通・商業 22.1% (29)
建設業 22.9% (30)
製造業 8.4% (11)
情報 9.9% (13)
- (3) 規模別 従業員数
＜正従業員＞ 平均 26名
＜臨時従業員＞ 平均 13名

1. 業況判断 DI 全業種では3期ぶりに増加(増減+6.7)。業種別では、サービス業では大幅な落込み(増減-21.7)、流通・商業は若干伸びが鈍る(増減-3.3)。建設業(増減+36.9)、製造業(増減+62.6)と大幅に改善。情報も(増減+9.8)と増加している。

2. 売上高 DI 全業種では堅調に増加を維持(14.5)。業種別では、サービス、流通・商業で堅調に増加。建設および製造ではプラス超に改善。情報は±0。

3. 経常利益 DI 全業種では鈍化しているものの改善を維持している(15.7⇒7.7=増減-8.0)。業種別では、サービス業(増減-7.3)および流通・商業(増減-1.3)、そして情報(増減-8.0)は若干の鈍化を見せているものの堅調な改善を示す。また、建設業(増減+16.7)は改善、とくに製造業は(△17.7⇒36.4=増減+54.1)と大幅に改善。

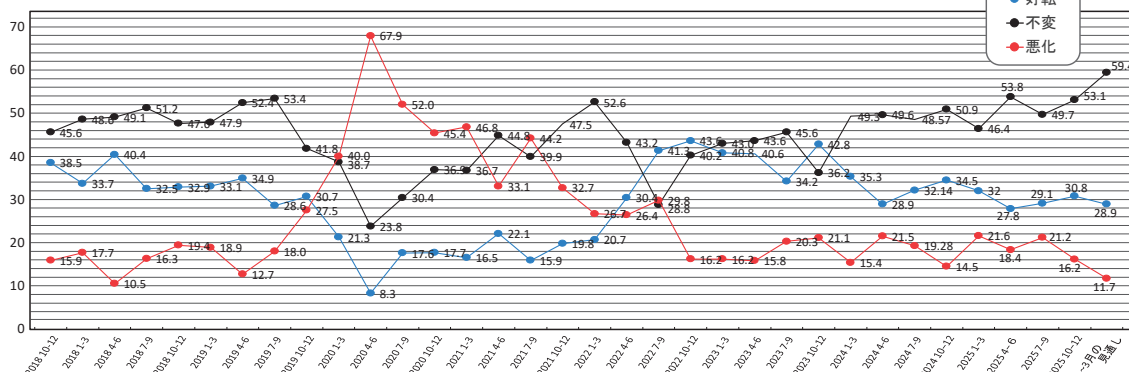
4. 資金繰り DI 前全業種では前期(7～9月期)から増加してプラス超(△0.5⇒2.2=増減+2.7)。業種別では、サービス業は悪化が続いている(△5.4⇒△18.8=増減-13.4)。流通・商業は鈍化(増減-9.3)。建設業は大幅に改善(増減+33.3)、製造業は改善するもマイナス超(△18.2)。情報は改善が継続(増減+3.6)。

5. 経営上の問題 全業種では、上位2位は入れ替わるものの「仕入れ単価の上昇」「人件費の増加」「従業員不足」が問題点として挙がる。また、「管理費等間接経費の増加」「熟練技術者の確保難」「同業者相互の価格競争の激化」がより上位に挙がる。

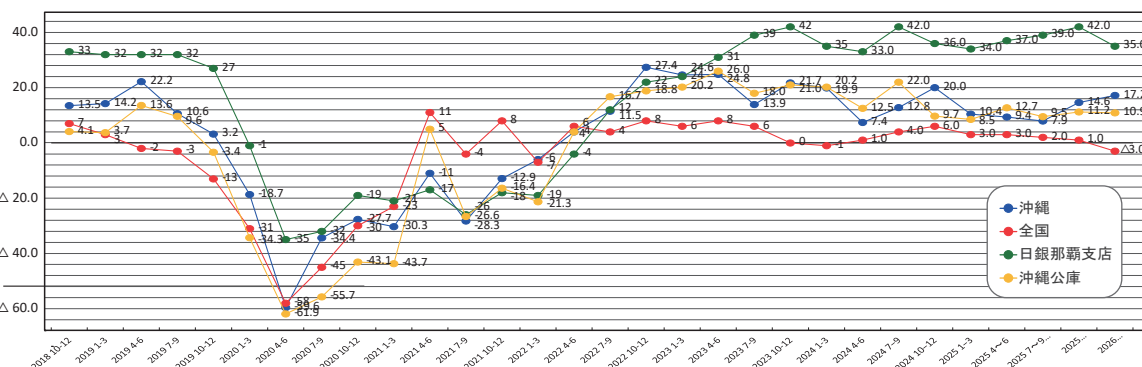
6. 先行き 翌期(1～3月期)見通しについて、全業種では、改善傾向の維持が見通されている(増減+17.2)。業種別では、サービス業はマイナスからの改善が見込まれ(増減+2.6)、流通・商業(増減+7.7)及び建設業(増減-3.3)は堅調な伸びの維持が見込まれ、情報(増減+15.4)では大幅な伸びが見通される。

	業況判断DI			売上高 DI			経常利益 DI			資金繰り DI		
	2025 7～9 月期	2025 10～12 月期DI	増減	2025 7～9 月期	2025 10～12 月期DI	増減	2025 7～9 月期	2025 10～12 月期DI	増減	2025 7～9 月期	2025 10～12 月期DI	増減
全業種	7.9	14.6	+ 6.7	11.3	14.5	+ 3.2	6.8	11.6	+ 4.8	△0.5	2.5	+ 2.7
サービス業	17.5	△4.2	- 21.7	21.4	18.7	- 2.7	11.5	4.2	- 7.3	△ 5.4	△ 18.8	- 13.4
流通・商業	17.1	13.8	- 3.3	11.6	17.2	+ 5.6	12.0	10.7	- 1.3	16.2	16.9	- 9.3
建設業	3.1	40.0	+ 36.9	△3.1	10.0	+ 13.1	0.0	16.7	+ 16.7	0.0	33.3	+ 33.3
製造業	△35.3	27.3	+ 62.6	△5.9	18.2	+ 24.1	△17.7	36.4	+ 54.1	△41.1	18.2	+ 22.9
情報	5.6	15.4	+ 9.8	21.1	0.0	- 21.1	15.7	7.7	- 8.0	11.8	15.4	+ 3.6

業況判断内訳の推移



沖縄と全国、他機関の比較 (業況判断)





高圧保守？

正直、
よくわからない。

正直、
どこでもいい。

正直、
安心ならいい。

正直、
マエダ電気工事の
マエキューが
いい。

プレゼントまで
もらえるし。

面倒な高圧保守

書類・点検・対応・社内電気主任も

ぜ～んぶ丸投げ！

お得な料金プラン

料金をご使用の設備容量をご確認の上、下記価格表に準じます。

平日をしっかり対応！
エコノミープラン
初月 **¥12,000**/月
(設備容量: 140KVA～180KVA の場合)

- ☑ 隔月点検
- ☑ 常時監視装置
- ☑ 時間内年次点検 (平日8:00～17:00)
- ☑ 年次点検時漏電回路調査
- ☑ 機器台帳と機器更新計画書
- ☑ 24時間緊急体制

土曜の屋でも対応！
スタンダードプラン
初月 **¥16,000**/月
(設備容量: 140KVA～180KVA の場合)

- ☑ 隔月点検
- ☑ 常時監視装置
- ☑ 時間内年次点検 (土曜日昼間OK)
- ☑ 年次点検時漏電回路調査
- ☑ 機器台帳と機器更新計画書
- ☑ 24時間緊急体制
- ※PCB検査1機体1万 (変圧器のみ)
- ※QIBまわり草刈り

いつでも迅速対応！
プレミアムプラン
初月 **¥18,000**/月
(設備容量: 140KVA～180KVA の場合)

- ☑ 隔月点検
- ☑ 常時監視装置
- ☑ 時間内年次点検 (土日祝日夜間OK)
- ☑ 年次点検時漏電回路調査
- ☑ 機器台帳と機器更新計画書
- ☑ 24時間緊急体制
- ☑ 緊急対応月1回無料
- ※緊急対応資材費は別途
- ※業務用消火器更新 (10年に1度)
- ※非常用発電機オイル交換 (6年に1回) 冷却水補給
- ※PASクリス査布

こんにちは！130社以上の
保守顧客を持つマエダ電気工事
高圧保守部門マエキューです。

今なら、
他社からの切り替え
または新規ご契約で
会社の非常時に役立つ！
Panasonic
でかランタンを
プレゼント！



※住所や駐車場の有無、年次点検実施日等で金額に変動あります。※発電機の有無で金額に変動あります。詳しくは担当者がご説明いたします。



まずはお気軽にお問い合わせください
098-853-9091
[受付時間] 平日 8:00～17:30



マエダ電気工事株式会社 | 〒900-0025 沖縄県那覇市壺川1丁目16-11